

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県央会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 発達障害の子どもたちを支援している立場からも、やはり保護者の理解と受容が追いついていないケースも多い。子どもたちの居場所である学童において、子ども同士が過ごしやすい場でなくてはならない。そのためには、発達障害の特性を理解した上での、個別の支援、保護者への支援を行う必要があると感じた。子どもの健全な育成につながるように、今後も自分自身が成長しながら、子どもたちをよりよい方法で成長させられるように工夫したい。
- ◆ 多様化していく現代社会において、秋田県でも様々な取組がされていることが分かった。障害者本人だけに目を向けるのではなく、保護者や取り巻く環境にも配慮することの大切さを改めて感じた。真の思いや願いを打ち明けてもらえるような、日々の信頼関係の構築や、一緒に成長を喜び、共に生きるといった心の拠り所としての一理解者でありたい。1人の人間として平等に関わる姿を示すことで、周囲の理解も得ていきたいと思う。
- ◆ 障害の特性を見極めることが大切だと思います。何がこの子どもが得意なのか、才能がある分野は何なのか、など、一人ひとりの子どもが輝ける世界を見つけてあげることでも私たちの役割だと感じます。保育園で長年勤務していて大変だったのが、保護者との関わりでした。受容に至るまで様々な経過や通過点がありましたが、両親や家族とのコミュニケーションを取ることを増やし、子どもの良いところをたくさん見つけて知らせるようにしました。それから就学時にかけてゆっくりと子どもに向き合い、育児が楽しいと感じられるように、心の氷を溶かすようにしていきました。
- ◆ 今回の科目を学び、障害についての捉え方や法令について理解を深めることができた。障害のある子どもたちの育成支援として、学童クラブとして、支援員としてできることはバリアフリーな環境作りの工夫をすることだと考えた。また、保護者の方々との情報共有も必要性を感じた。保護者との関係づくりが必要となってくると思うため、保護者対応に力をいれていきたいと思った。
- ◆ 発達障害の背景を推測すること、理解の難しさを考えさせられました。支援の仕方が人それぞれであること、障害名や診断名のみにとらわれずに多面的に実態把握することが大切だと思いました。学童でも子どもの個性なのか障害なのか区別がつかない子どもがいるので、子どもの特徴をよく見て、その子に合う支援を行っていききたい。